

令和3年度 学校評価報告

草加市立新栄中学校

(令和4年1月28日作成)

1 学校教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒 ・正しい行動のできる生徒 	
目指す学校像：「笑顔で元気に学び鍛える新栄中学区の子」	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
学力向上と主体的に学びに向かう力の育成 ・埼玉県学力学習状況調査の国語・数学・英語における学力の伸び率3以上を目指す。 ・主体的に学びに向かう力を育成し学校生活満足度90%以上を目指す。	成果 ○埼玉県学力学習状況調査分析の結果、学年が上がるにつれてどのレベルの生徒も学力の伸びが見られた 課題 ●規律ある態度での整理整頓が県平均を3.1%下回った。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	○校長による学校経営方針、重点目標の提示により、教職員がゴールへの見通しを持つことができた。 ○企画委員会、職員会議の資料を事前に提示し、円滑な議事の進行ができた。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	○研修主任を中心に計画的に研修ができた。 ○幼保小中を一貫した教育に関連して、授業改善の意識が高まった。 ●研究仮説の設定や方策などを具体的に考えることなど、研修内容を充実させることが不十分であった。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○毎月安全点検を行い、施設設備等に対する安全意識が高まった。 ○コロナ禍における保健指導において、教職員の連携を密にし、迅速な対応ができた。 ○優先順位を決めて修繕依頼ができた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	○個人情報持ち出し簿を用いて管理されている。 ○校内パソコン・校支援システムの活用、情報の漏洩防止等で情報管理は徹底された。 ○市の施設課と連携して学校施設の修繕を進めた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	○学校情報の発信は、学校だより・学校メール・ホームページ掲載等で情報発信した。 ○学校運営協議会を年3回幼保小中連携は担当者会議を毎月、連絡協議会を年2回実施した。 ●公開授業などを工夫して行いたい。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	○幼保小中一貫教育担当者会議の内容について通信を発行し、教職員の意識を高めた。 ○家庭学習や親子読書デー等、中学校区での一貫教育を行った。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数の確保を行うことで、無理なく順調に各教科の指導内容を全て終了することができた。 ○新学習指導要領がスタートしたので年間指導計画を修正しながら授業を行うことができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートから「授業はよくわかる」について肯定的な回答が61.8%であった。 ○新学習指導要領による新たな評価について研修をし、より効果的な評価について考えた。 ○「主体性」をテーマに授業改善のための校内研修を行った。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートより、「思いやりの心を大切にしている」に対しての肯定的な回答98.1% ○いのちを大切に考える学習等を行い、地域・家庭との連携が行えた。 ○指導計画や授業内容、評価方法等について学年内統一を進めた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍ではあるが、できるように方法を考えることにチャレンジした。 ○全校で行うような大規模の行事は縮小せざるを得なかったが、学級活動や学年行事を充実させることができた。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○探求課題を設定し、体験活動ができないながらも充実した活動を設定することができた。 ●年間指導計画等の抜本的な改善が必要であると指摘をいただき、次年度に向けて改善していきたい。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化に対応した生徒指導を目指して、旧来の慣習的な校則の再考を行った。 ○いじめ防止対策会議の充実のため、メンバーや内容について考えた。 ●不登校生徒への個に応じた対応について方法を考えた。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導主事だけでなく、多くの教職員が校支援システムで進路事務に関わるすることができた。 ●進路指導だけでなく、キャリア教育についてどのようなことが求められているのかを研修する必要がある。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全校的な協力的体制のもと、一人ひとりの生徒の成長が見守られていた。特に感染症対策を丁寧に行い、交流学級や支援籍も行うことができた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書と図書館教育担当を中心に、図書室の整備が進んでいる。学校全体で図書館を活用するために「コラボ給食」などの施策に取り組んでいる。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○GIGAスクールに対応するために研修を行い、全員が端末を使った授業を行えるようにした。 ○業務の効率を高めるために、校支援システムの活用を促進した。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育担当を中心に研修を行い、教職員の人権感覚の育成を図った。 ○道徳だけでなく、学級活動等を通して生徒の人権感覚の育成を図った。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	勉強の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> 各種学習状況調査 家庭学習の定着 	B	○毎月5教科のうち一教科ずつ基礎学力テストを行っている。また、今年度は全校参加の統一計算コンテストを開催するなど、楽しみながら学力を向上させる取り組みを行った。今後は研究主題にもある「主体性」を柱に学力の向上を図る。
	挨拶の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動 専門委員会の活動 校内の様子 地域からの評価 	A	○挨拶運動は、校長をはじめ生徒指導部が中心となり、毎朝行われている。周期的に全職員での登校指導と生活委員の挨拶運動も行った。廊下では、必ず挨拶をする生徒の姿が見られ、来校者や地域の方からお褒めの言葉を頂いた。学校評価でも、朝早くから登校する生徒が多く、挨拶を交わす姿が見られると記載された。
	活力の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> 活気のある行事の取り組み 活気のある授業風景 活気のある部活動 活気のある掃除の姿 	B	○ICTを活用し、個別最適な授業を目指して各教職員が授業改善を行った。 ○清掃活動について、時間を十分に確保し、生徒の主体的な活動を促進した。 ●コロナ禍での行事の在り方についてMeetの活用等をしたが、今後も改善が必要である。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

学校関係者評価では、「一人一人に対してきめ細かな指導をしている様子が見える。」との評価をいただいた。また、コロナ禍ではあるが工夫して地域との交流を行ってほしいという意見もあった。

埼玉県学力学習状況調査分析の結果、学年が上がるにつれてどのレベルの生徒も学力の伸びが見られたが、規律ある態度での授業開始時刻を守るという項目が3年生で県平均や草加市平均を下回ってしまった。靴そろえや整理整頓についてはどの学年も平均を下回っており、落ち着いた学校生活を送る上での課題となっていることが明らかになった。

不登校生徒への対応については、毎年のように課題として挙げられるが、目に見える形での改善は見られないことが反省である。不登校生徒への対応の改善策として、今年度はいじめ防止対策会議の在り方について再考し、具体策の出せる組織を編成した。

今年度は学校評価の在り方についても再考した。教職員が自らの職務を客観的に評価し、何をどのように改善すれば良いのかの指標となるような評価項目に改めた。

6 次年度の改善策

教職員の自己研鑽なしに、生徒のより良い成長は望めない。新栄中学校は教師の授業改善を中心に、校長の推進する具体的な学校像を具現化したい。

学力については、幼保小中を一貫する教育で行っている研究を中心に、生徒の「主体性」を育成するために授業改善を行う。各種アンケートなどを教職員自身が主体的に分析し、工夫改善を行う。

不登校生徒への対応については次年度以降も既存の会議の質を高め、生徒にとって何が最適な対策なのかを考え、不登校を少しでも改善させる。

コロナ禍ではあるが、いつまでもそのことを理由に言い訳をしては将来の日本や世界を担う子供たちを育てる立場の教員としては不十分である。コロナ禍を好機ととらえ、削減できる業務は削減し、効率の良い業務を目指す。今後も新栄中は学力向上と基本的な生活習慣の定着を中心に学校・地域・家庭と一体になって教育活動を行っていく。